

令和5年度 第3回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和5年10月2日(火) 午前10時から11時30分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長(地域コーディネーター)

【委員②】中村町自治会長

【委員③】静岡市大里生涯学習センター長

【委員④】ありんこの里管理者

【委員⑤】JA静岡中央会組織広報部長

【委員⑥】本校PTA会長

【委員⑦】小糸製作所人事部企画課 欠席

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、幼稚部主事、中学部主事、地域支援部長、教務課長

4 会議次第

(1) 開会 校長挨拶

(2) 報告等

ア 地域社会と協働した取組

イ 前期の学校評価について

ウ 秋の読書週間の御協力について

(3) 閉会

5 報告等内容

(1) 委員の方々をおとした地域社会と協働した取組と子どもたちの様子(各委員から)

- ・学校で授業をするにあたり、資料作成をすることで自分自身の学びになった。昔を学ぶということは未来をどうするか考えることにつながる。これは地域や人との有り様にもつながると感じた。
- ・ろう学校の児童生徒が施設に見学に来ることを利用者(ろう学校卒業生が多い)に事前に伝えると、とても楽しみにしていた。実現できなかったが、職場体験学習でこの施設に中学部生徒が来るという計画を聞いた時は、利用者たちが前もってどのような体験を行ってもらおうか等考えていた。小学部児童の見学の際は利用者にとっても刺激になり、嬉しそうだった。またこのような計画があれば、ぜひ来ていただきたい。そして今回は交流を行いたい。また利用者もろう学校に見学に行きたいと言っている、伺っても良いか。→是非来校いただきたい。
- ・このような活動は単発で終わりではない。良かったね、楽しかったね、ではなく継続することが大切。
- ・幼稚部の頃から毎年積み重ねてきた「人前で自分の意見を言う」体験が「子ども県議会」で集大成として表すことができた。この学校で培ったことのあらわれだと感じた。地域のつながりも含めて考えると、通常の学校では「集団と地域」という関わり方だが、この学校では「児童生徒個々と地域のつながり」ができるのが強みではないだろうか。中学部の太鼓活動も、日々の練習の成果をぜひ外部に

発信してほしい。昨年度はアピタ石田店で太鼓の披露を行ったが、今年度も披露してほしいと思っている。

- ・子どもが達成感や満足感を得る体験が大切。
- ・過度に負担を掛けずに地域と上手に交流できていると感じた。今日のようにスライドで発信している文章等を生涯学習センターでも同じように表示してはどうか。地域の方々は学区に「ろう学校」があるのは知っているが、どのような活動をしているのかまで詳細を知らない。様々な人々にろう学校のことを知ってもらうアピールが必要かと思う。
- ・地域の人々に協力してもらう学習活動については、子どもたちは学年が上がり入れ替わるので、同じ内容をベースに必要なに応じて改善していけば良いのではないか。
- ・小学部4年生が特に多いように感じたが、他学年も取り組みを増やし、社会性や満足感を得てほしい。勉強が大切なのはもちろんだが、このような活動や経験をとおして、子どもたちが受け身になるのではなく、主体的に動いていけるようになってほしい。

(2) 学校評価（前期）について

（学校からの説明を受けて委員の方々より）

- ・防災、防犯訓練は、突発的にやってもらい、子どもたちに備えの大切さを感じさせたい
- ・経過の評価ができています。ICTの活用も積極的にされている。トイレに掲示されている「スキルちゃん」から、先生方が思いをもって取り組まれていることを感じました。
- ・学校評価の評価規準はどうなっているのか。集計結果を見ると、「AB評価が〇%」のみの表示だが、実際はその評価の中身を具体的に振り返り、活用していくのが良いのではないかと思った。

（副校長より）

- ・後期は、評価の分析をどのように次に生かしていくか考えていく。

（中学部主事より）

- ・学校評価に加えて学部評価を行っている。様々な方面からの評価を行っているが、改善が必要なことについては学部間教員で話し合い後期につなげていくようにしている。

(3) 秋の読書週間への御協力

- ・各委員に本校の図書室の施設開放を行い、「しずろう読書週間」に向けて、幼児児童生徒に向けたメッセージ（推薦図書アンケート）を記入いただいた。

6 閉会・連絡事項

次回：1月29日（月）10:00～11:30